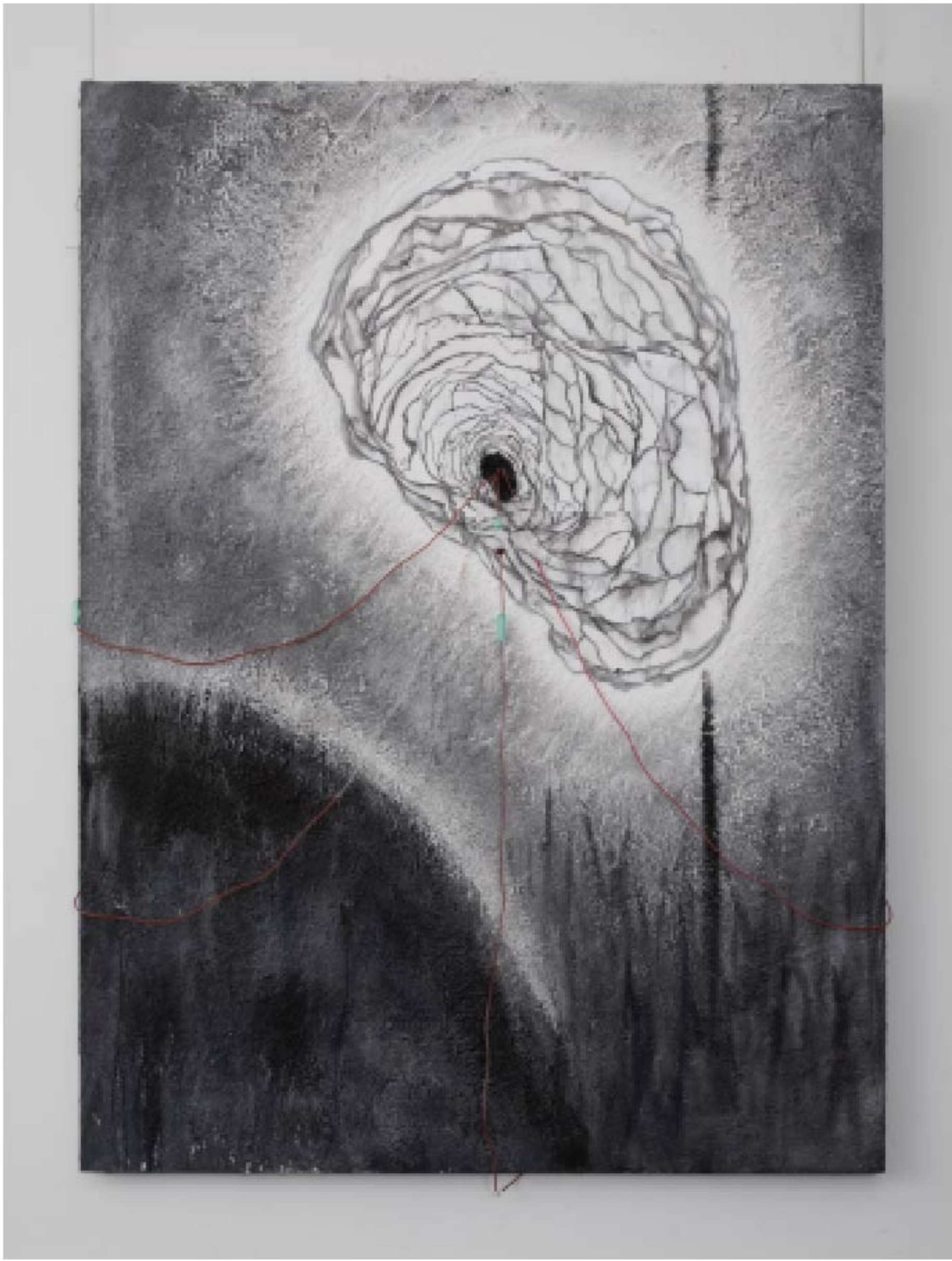


劉 欣悦
LIU Xinyue



自己補完

紙、砂、墨、アクリル、点滴ライン



切れない葛藤

新聞紙、砂、墨、アクリル、LED ライト、糸

作品による心理的な表現

私は、心理的な作用をテーマとして作品創作をしている。このテーマに基づいた制作を展開するために、絵画と立体的な表現や様々な素材などを使って表現方法の探索を行なっている。多様な要素を融合させた表現により、『きれない葛藤』や『自己補完』の作品のなかにも含ませた私の「自分を暴露する」という心理的な作用に触れてもらい、他者に同じことを感じさせたい。

私は二つの作品を制作した。

一番目の作品のタイトルは『切れない葛藤』である。私は、人生でさまざまな絡み合いを経験し、最終的にそれらの中を通過して最後の選択を見つけなければならないと思っている。これらの絡み合いは混乱し混沌としている。私にはその状況や不可解な交錯それ自体を取り除くことはできないので、自分で新たな抜け道を見つけるしかない。不自由な世界を作品として存在させて、そのなかを彷徨い蠢く感情を表出させたいのだ。つまり、この心の旅を作品で表現した。

この作品では、絵画的な支持体をベースにしながらも抽象的なことを現実存在する物と組み合わせることで表現したいと考え、絵画の技法や材料以外にあえて既製品やインスタレーション的な要素を取り込むようにした。

色々な材料の特徴を調査し、使用実験をして、作品表現に合う表現方法を見つけ出すようにした。この作品では、たくさんの新聞紙を使用して、壁のような下地をすることで、現代社会における生活感と外部からの混乱した情報を表現している。そして、LED ライトを使用した。LED ライトを使って画面の視覚的な中心を作成した。さらに複数の糸が束ねられる中心を LED ライトの光の上に配置し、抜け道やまだみぬ未来への道標のようなシルエットを生み出すようにした。作品画面上で現代的な既製品と有機的な表情が融合する、象徴的で目立つ地点にしている。

2 作目の作品タイトルは『自己補完』である。

この作品のテーマは心理学のモラトリアムである。

人間の成長の過程で、特定の目標や価値観が完成しない段階がある。この段階で、自分で情報を収集し、さまざまな活動を試み、さまざまな選択を積極的に模索することを通して、自分の世界観を形成する。

この作品は、この段階にとどまっている私の気持ちをモチーフにして制作した。

このテーマを決めた後、イメージなどのスケッチを行い、そしてスケッチに基づいて、最も合う材料と技法を選んだ。作品に孤独感のある効果を与えるために、紙の厚さや墨と破れた紙の相性などを確認するため複数の小さなサイズの試作を繰り返した。

この作品では、50 枚ほどの紙を使ってかきの殻の形を作った。この表現は、成長段階と紙の殻が自分を保護し続けている意味を表す。また、画面に墨を使用して、色の濃淡が変化する効果などを用いて不安定な感じを表した。そして、この成長する段階、生きる様において、私は常に自分の考えで自分を補完することを繰り返している。自らが作り出した得体の知れないものを点滴して摂取するという、自分を補完する状態が続いている状況を表現した。

本研究と制作により、心理的な内容を表現することに関する具現化を進めることができたと考えている。

今後さらに美術表現の思惟を広げ、多様なメディアを活用し、自分の考えと生命力を感じる事が可能になる作品の制作を続けていきたい。